

第2期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組の体系について

1. 計画期間

令和3年4月1日から令和8年3月31日まで（5年間）

2. 守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

第1期戦略と同様に、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、市民の皆さんに住みよい環境を提供し、活力ある社会の維持を目指すことを目的に、**令和3年度を始期とする市の最上位計画である第6次守口市総合基本計画の個別計画の一つ**として位置づけるもの。

3. 守口市まち・ひと・しごと創生委員会等でのご意見等

① 令和2年度第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会でのご意見について（抜粋）

- ・ 新型コロナウイルスに関する項目は盛り込むべき。
- ・ 守口市のイメージは、年配の人は治安が悪いというイメージ、若年層は、便利な街というイメージがあるように思う。まちのイメージも改善傾向にあるなら良い傾向。守口市は、ひとの定着が課題であると認識しているのでその面について頑張ってもらいたい。その中で、子育て支援についても本当に5歳まででよいのかということも考えないといけない。個人的なことだが、家を買うタイミングは、子どもが小学校に入る直前だと思う。小学校を転校させたくないという思いがある。5歳だとタイミング的に逃げてしまう。6歳から7歳までの支援を充実させることもひとつ。
- ・ まちの歴史など市民の誇りになるような事象を宣伝・発信するべきではないか。守口市を好きになるツールだと思う。
- ・ 就学児童を子どもに持つ親の一番の関心は、安心・安全な環境・まちづくりは大切な要素である。その中で学校教育は大切。児童に安心・安全な環境を与えることができるのか。特に、コロナ禍の中にあってこの要素は切り離せない。取組を進めればPRになる。
- ・ 子育て世代は、他市もターゲットにしている。差別化を図ることが大切。選択と集中を図ることが大切。
- ・ 学生の経済格差がネット格差につながっている。その格差が学びの差になっている。守口市はICTに力を入れている。経済格差が学びの差にならないような取組も一考すべき。
- ・ 教育をメインに書くことはできないかもしれないが、総花的ではなくもっとターゲットや取組を絞り込んで戦略を策定してもいいのではないか。
- ・ 就学児への支援が大切ではないか。他市の就学児のいるファミリー層を取り組めるような施策をするべき。
- ・ 守口市は、いろいろなことをしているのに情報発信が足りない。
- ・ 知識と情報が愛着に比例すると思う。その人の中に守口の情報や知識が蓄積することが大切。
- ・ 守口市が保育無償化なので、守口市に転入したが、子どもが大きくなったら学力レベルが高いイメージのある北摂とかに引っ越す可能性もある。まちのイメージは重要。
- ・ 無償化などの施策をたくさん打ち出し続ければ、人口は増えるのか。市民の皆さんの転出理由を細

かに分析することも必要である。

②令和2年度第1回守口市まち・ひと・しごと創生本部会議での意見について（抜粋）

- ・第1期戦略においては、設定したKPIのうち7割が、初期値よりも取組が進んだと評価されているが、進まなかったKPIについては、なぜ取組が進まなかったのかをきちんと把握しておくべきである。
 - ・教育委員会においても、様々な取組を進めてきたが、学力向上に課題があると認識している。
 - ・これらの基本目標を達成するために、どのような施策が望ましく、かつどの程度の予算が必要なのかというシュミレーションが必要ではないか。
 - ・大阪府外からの転入者が多い（転出者も多いが）ように思うが、それらの方々へのPRも考えるべきではないのか。大阪府外の方では、大阪府内自治体のブランド格差などについて知らない人が多いと思うので、この方々にPRしてはどうかと思う。
 - ・小学校に入るときは、定住の地を決めたいというのはその通りだと思う。5歳から9歳の転出超過については、課題として認識すべきであると考えます。
 - ・基本目標の達成状況がこの当時に意図した取組が反映されての成果なのかが分からなくなっているのではないかと。例えば、幼児教育・保育の無償化については、平成29年度から始まっており、平成27年度に策定された本戦略の取組成果（合計特殊出生率が大阪府を上回った状況）としてもいいのかという考えはある。
→次の基本目標については、子育てファミリー世帯の守口定住を促すことを挙げており、5歳から9歳の転出超過に歯止めをかける施策に対する数値目標を設けながら施策の整理をしたところ。
 - ・基本目標3の様々な仕事の間を身近で提供するについては、第2期戦略において縮小しているように見受けられるが、それはなぜか。就業率がクリアしているからなくしたのか。守口市は便利だから住んでいるということが基本ではないのか。夜間人口的な役割に変わっているのではないかと。
→第2期戦略では、本項目については、絞込みを行ったところ。仕事と暮らしのバランスが取りやすい環境を提供すると整理したところ。
 - ・「若い世代」や「子育てファミリー世帯」の明確な定義が分かりにくい。例えば、若い世代が守口をふらっと訪れる機会を提供するとあるが、若くなくても是非とも来ていただいて、関係人口の増の貢献いただくということも考えてもいいと思う。そのあたり、文言調整が必要だと思っている。
 - ・総合基本計画における前期基本計画との整合性もよくよく考慮してほしいと思う。
- ※→●●●部分については、事務局発言の要約

③令和2年度第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会でのご意見を踏まえた、市内不動産事業者へのヒアリングについて（要点）

選ばれる不動産の傾向

- ・ 築年数の浅い物件が人気で、古い物件は空き家となる傾向が顕著
- ・ 地下鉄や京阪電車など、駅から近く、職場へのアクセスが良いこと。※若い世代の流入を感じる。
- ・ 生活に必要なインフラが固まっていることが重要。現在は、寺方南小学校区に人気があり、小学校と市立認定こども園が隣接しており、かつスーパー等の生活インフラも近くにある。駅からは遠いが、ファミリー層が子どもの送り迎えや買い物が狭い範囲で完結することが魅力という声がある。
※若い世代は、子どもに関する「時短」と「効率化」を求めているのではないか。
- ・ 便利な場所であっても空き家が増えれば、生活環境に対するイメージが悪くなり、特に若いファミリー層が避ける傾向にある。

守口市から転出される方の傾向

- ・ 全国学力・学習状況調査の結果が思わしくないとの認識・イメージがあり、教育に関心のあるご家庭については、子どもが通学する学校近くに引っ越しをされる方もいる。（大阪市内など）
- ・ 阪急沿線などにブランド力があるため、その魅力に惹かれる方もいる。

守口市で取り組めること

- ・ 守口市の魅力をホームページ等を使って積極的に発信していくことに尽きる。
※若いファミリー層は物件を探す際は、インターネットをフル活用し、住環境や学校の評判、子育てのしやすさなどについて情報収集をしているように感じる。

④子どもの転出入状況の分析について（要点）※暫定

子どもの転出入差
(2014~2019)

0~2歳児
5歳児

大阪市から大きな転入超過
多くの地域で転出超過

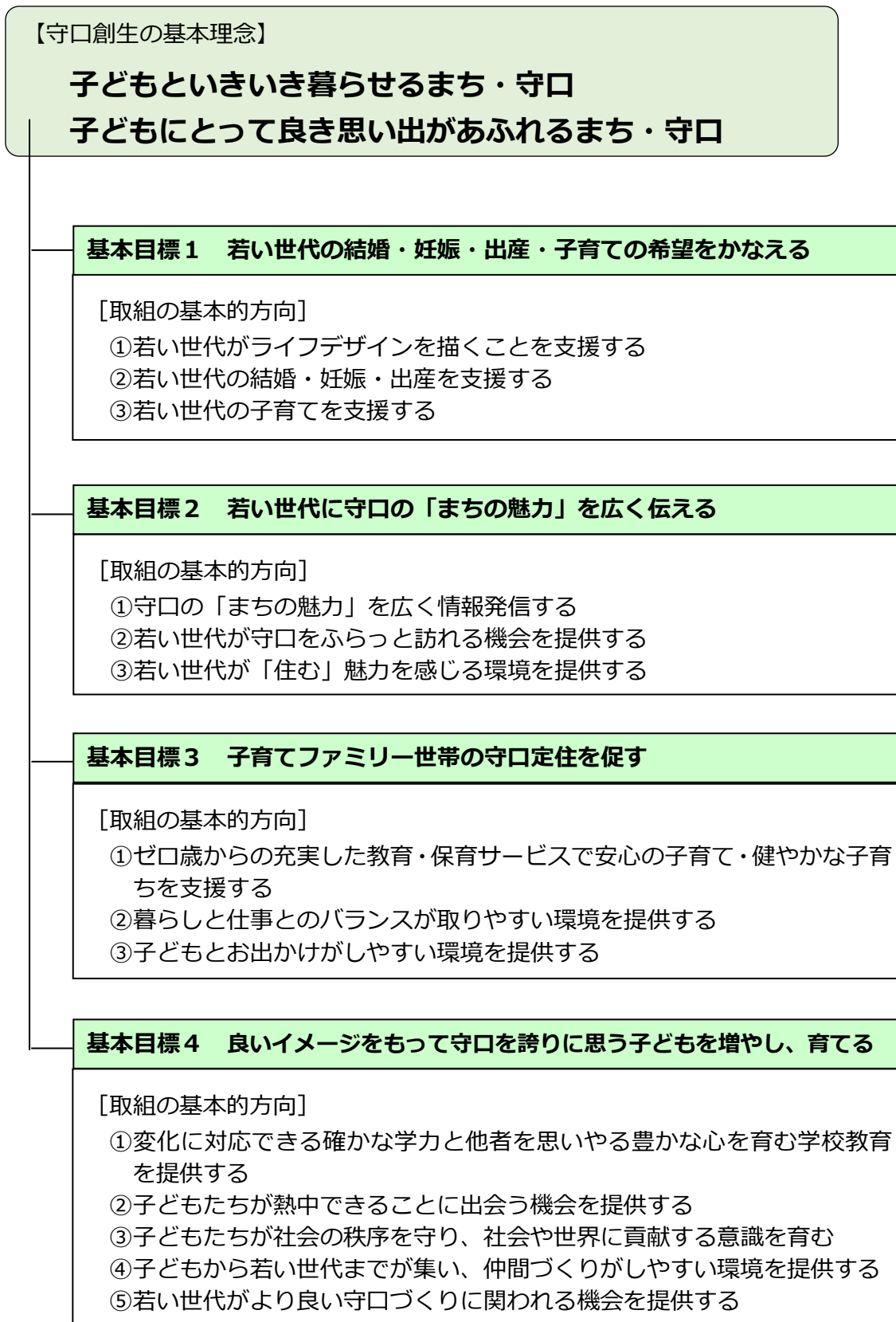
移動年齢	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	遠方	不明	合計
0歳児	25	130	-1	-10	4	-3	-13	3	-8	1	-19	-16	5	92
1歳児	14	83	-1	-23	3	-4	-6	-3	3	-2	-13	-35	8	27
2歳児	0	74	-1	-15	5	3	-5	-2	-3	3	-5	-13	6	35
3歳児	-1	23	-1	-7	2	2	-4	-5	-2	4	-9	-16	4	-5
4歳児	-7	25	-1	-9	2	4	-2	-2	-2	-2	-7	-10	1	-8
5歳児	-32	-13	-1	-18	3	-5	0	4	-4	1	-10	-20	3	-105
合計	-1	322	-2	-82	19	-3	-30	-5	-16	5	-63	-110	27	36
合計(大阪通勤圏)	-1	322	-2	-82	19	-3	-30	-5	-16	5	-63			119

課題 5歳児 多くの地域で転出超過
豊能地域 転出超過(毎年、全年齢)

4. 取組の体系と本戦略の実行を通じて実現をめざす「守口の姿」について

①取組の体系

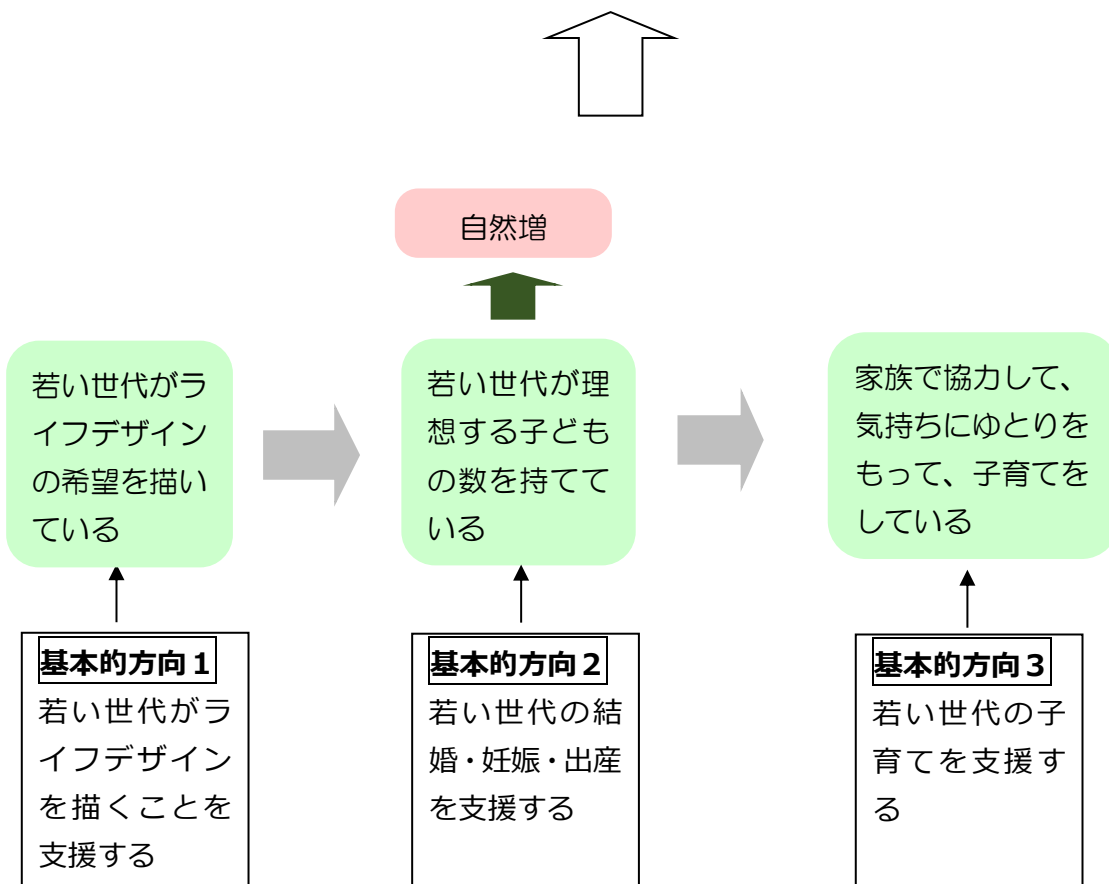
本市の地方創生は、次の体系に沿って取組を進めます。



②本戦略の実行を通じて実現をめざす「守口の姿」

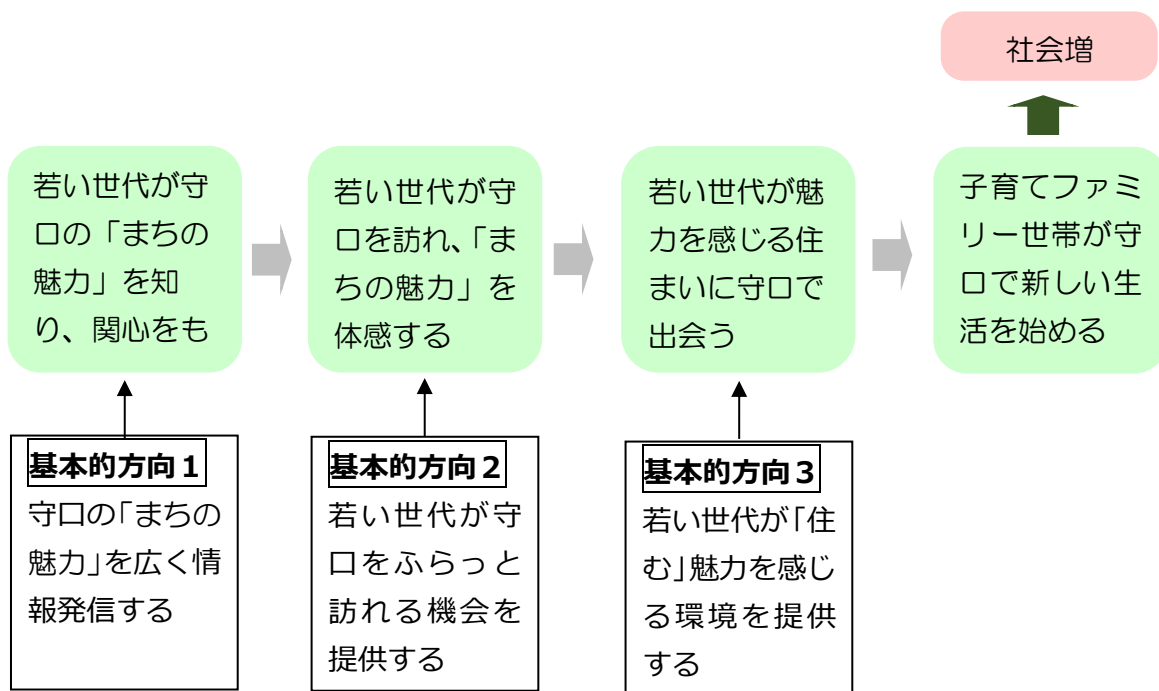
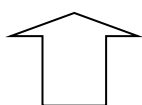
基本目標1 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

- 若い世代（中学生、高校生、大学生、社会人）が、進学・就職・結婚・出産・子育て等のライフイベントをどのようにしたいかという将来の希望を描いています。
- 理想とする数の子どもをもち、家族で協力して、気持ちにゆとりをもって、子育てをしています。



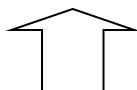
基本目標2 若い世代に守口の「まちの魅力」を広く伝える

- 守口の多様な「まちの魅力」についての情報の発信量が増え、守口の「まちの魅力」を知り、守口に興味や関心をもつ若い世代が増えています。
- 守口をふらっと訪れる様々な機会があり、若い世代が守口を実際に訪れ、市民との交流等を通じて、守口の「まちの魅力」を体感しています。
- 住宅に関わる情報発信等が充実することで、住まいを探し始めた若い世代が魅力を感じる住まいを見つけ、いきいきと生活しています。
- 守口であれば「私達らしい暮らしや子育てができるのでは」と期待して、守口で新しい生活を始める子育てファミリー世帯が増えています。



基本目標3 子育てファミリー世帯の守口定住を促す

- 子どもと楽しめる様々な機会や場所あり、お出かけしやすい環境が整うことで、子どもと楽しく休日を過ごしています。
- 大阪都心への交通利便性を活かし、暮らしと仕事とのバランスがとれています。
- このようにもりぐちライフを楽しむことにより家族との良き思い出が増えています。
- 家族の成長に合わせて住み替える時、再び「守口」を選んでいきます。



家族の成長に合わせて住み替える時、再び「守口」を選ぶ



社会減の抑制



もりぐちライフを楽しみ、家族との良き思い出が増える



男女がともに仕事と子育てを両立している



暮らしと仕事とのバランスがとれている



子どもと楽しく休日を過ごしている

基本的方向1

ゼロ歳からの充実した教育・保育サービスで安心の子育て・健やかな子育てを支援する



基本的方向2

暮らしと仕事とのバランスが取りやすい環境を提供する



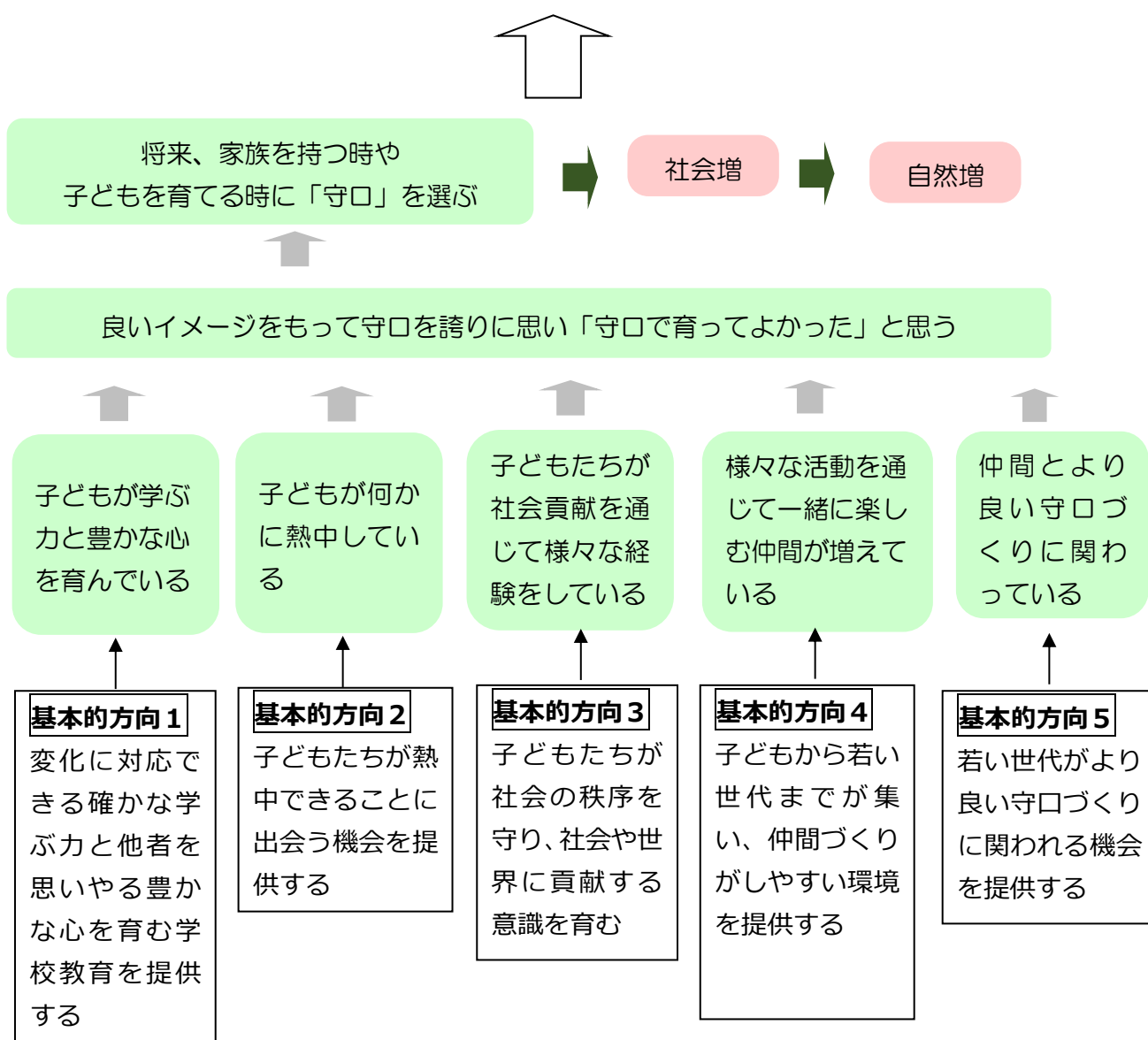
基本的方向3

子どもとお出かけがしやすい環境を提供する



基本目標4 良いイメージをもって守口を誇りに思う子どもを増やし、育てる

- 学校教育等を通じて、子どもたちが学ぶ力と豊かな心を育てています。
- 様々な経験を通じて熱中できるものと出会い、子どもたちが何かに熱中しています。
- 子どもたちが社会貢献を通じて、大人や社会と関わり、様々な経験をしている。様々な暮らしや仕事があることを感じています。
- 守口に住む若い世代が「守口で育ってよかった」と思っています。
- 将来、家族を持つ時や子どもを育てる時に「守口」を選んでいきます。
- 若い世代が集う様々な機会や場所があり、そこで知り合った人との活動を通じて、一緒に楽しむ仲間が増えています。
- 仲間と様々な活動を続けることで、より良い守口づくりに少しずつ関わっています。
- このようにもりぐちライフを楽しむことで仲間との良き思い出が増えています。



(参考) 第1期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略のテーマについて

守口創生の基本理念

安心・快適・便利に子育てできるまち・守口

基本目標1 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

- ①結婚したい若者の活動支援
- ②若い世代の妊娠・出産を支援
- ③若い世代の子育てを支援
- ④安心して子どもを預けることができる保育サービスの提供
- ⑤魅力ある学校教育の提供

基本目標2 安心・快適・便利に暮らせる大都市に隣接した居住地にする

- ①若い世代が魅力を感じる住宅の供給促進と市内での住み替えの促進
- ②若い世代が安心して暮らせる防犯まちづくりの強化
- ③子育て親子が安心・快適に出かけられるまちづくりの推進

基本目標3 様々なしごとの場を身近で提供する

- ①企業のビジネスの発展を支援
- ②新たな雇用を生み出す創業を支援
- ③ワークライフバランスのとりやすい職場を増やす
- ④若い世代の就業を支援

基本目標4 守口市の魅力を高め、発信し、守口市を誇りに思う市民を増やす

- ①守口市の魅力を発信する
- ②守口市の魅力に出会う機会をつくる
- ③守口市の元気拠点を整備する